

別記様式第2号

令和 8 年 2 月 10 日

<b>行政視察報告書</b>	(会派の場合) 会派の名称			
	代表者氏名			
	(会派以外の場合) 議員氏名		荒井直彦	
参加議員	土佐洋子	議員	伊東圭介	議員
	笠原俊一	議員	待寺真司	議員
	荒井直彦	議員	金崎ひさ	議員
		議員		議員
日 程	令和 8 年 1 月 20 日 (火) ~ 令和 8 年 1 月 21 日 (水)			
視 察 先	(1) 佐賀県多久市			
	(2) 佐賀県武雄市			
	(3)			
視察目的 (項目)	(1) 多久市 I C T 教育の取組み及び多久市 D X 推進事業について			
	(2) 武雄市図書館及びこども図書館の運営について			
	(3)			
<b>【調査内容・概要】</b>				
<b>(1) 佐賀県多久市</b>				
<p>多久市は、佐賀県の中央に位置し、九州横断自動車道の多久インターチェンジを有し、県都佐賀市と唐津市、伊万里市、武雄市などをつなぐ交通の要衝地です。北に位置する「天山」をはじめ、四方を緑豊かな稜線に囲まれた盆地に市域が広がっています。視察当日には天山は真っ白な雪化粧に覆われていました。行政面積は 96.56 ㎢あり、その内約 79 ㎢が山地及び丘陵で、低地は約 15 ㎢、約 2 ㎢が段丘です。市の中心部には J R 九州長崎本線が東西に横断しており、多久駅・中多久駅・東多久駅の 3 駅があり、電車での佐賀市や長崎市へのアクセスも便利です。</p> <p>鎌倉時代から江戸時代にかけて多久市域及び周辺を統治していた多久家の 4 代多久茂文は、教育に力を注ぎ儒学を奨励して 1699 年に儒教精神に則った学校「東原庠舎 (とうげんしょうしゃ)」を諸藩に先駆けて開校し、学ぶ意欲があれば武士に限らず学べる学問所でした。また、1708 年に孔子の教えの象徴として「多久聖廟」を建設して孔子の教えを説きました。多久聖廟は孔子像を安置する廟で、</p>				

国の重要文化財に指定されていて現存する聖廟としては世界最古となります。視察時間まで時間に余裕がありましたので、現地を行政視察前に訪問し見学いたしました。「東原庠舎」の名は、現在多久市にあります3校の小中一貫義務教育学校の校名の冠となっており、往時の教えの精神が脈々と受け継がれていると感じました。現在は宿泊研修施設として利用されております。



👉 東原庠舎の正門



👉 多久聖廟を正面から

昭和の大合併により、昭和29年5月1日に北多久町・東多久村・南多久村・多久村・西多久村の1町4村が合併して市制を施行しました。当時の人口は4万7千人を有しておりましたが、石炭産業の衰退とともに人口減少が進み、令和8年1月1日現在の人口は17,287人、7,906世帯が暮らしています。他の地方自治体同様に現在も人口減少が進んでおり、1月1日時点での前年同月比で310人の人口が1年間で減っています。人口減少に歯止めをかけるため、令和12年度を目標年次とした第5次多久市総合計画を策定し「緑園に輝くまち 多久～時流を感じる 文教・安心・交流・協働のまち～」を掲げ、企業誘致や定住促進策など各種施策に取り組んでいます。

今回の視察目的は、前述した3校の義務教育学校でのICT教育の取り組みやその利活用などについてと、多久市役所でのDX推進方針の進捗状況や実施事業について教育委員会及び情報政策課の職員から、2部制にて詳細な説明をいただき質疑応答を行いました。

多久市の学校教育の重点と目指す姿は「自らの生活を創造できる児童生徒」と掲げ、その目指す姿に向け、教職員のICT機器の利活用をさらに促進して、児童生徒自身が「学びのツール」として活用できる環境を整え、近未来、スマート社会を生き抜くデジタルシチズンシップの育成を図っていくための3つのターゲットを定めて先進的に取り組んでこられました。

また、市の施策として興味を持ったのが公民館や体育館及び学校体育館に設置された鍵BOXです。利用者が事前にID登録を行い、「多久市公共施設予約システム」にログインして、使用する施設や日時及び使用時間を選択して、申込を行う

システムで、料金の支払いも同時に行えるものです。その都度変わる暗証番号を鍵BOXのテンキーに入力して、中にある鍵が取り出せるものです。コストはかかりますが利便性はかなり高まるものと思いました。



👉 東原庫舎正門近くに設置されている説明プレート

★ 多久市義務教育学校におけるICTの取り組み及び第2期GIGAスクールへの対応策及び取り組みについて、事前に送っていた質問に沿って説明を受けました。

問 ICT教育による児童・生徒の主体的な学びの変化についての評価は  
➡ デジタル百マス計算やAIドリル等、楽しみながら学んでいる

問 ICT教育を推進する際の留意点と教職員のスキルアップの手法は  
➡ 教職員向けの研修会などを開催している

問 第2期GIGAスクールではどのような進化を求めて取り組んでいますか  
➡ ハード面では、令和7年10月に児童生徒用端末更新（予備機含め1,473台）を行っていて、今後はより授業で活用されることを見込んで、校内ネットワーク等の見直しを行っていく予定だそうです。

ソフト面では、デジタル百マス計算やAIドリル等のデジタル教材の活用を推進していく。また、生成AIに関しては、今後、使用ルール等の整備が必要。

問 フルクラウド化による教職員の働き方改革推進への成果は  
➡ 義務教育学校スタート時（平成29年）と比較して、昨年度は3校の時間外勤務が約6割減となっている。また、ICT利活用により、教職員の働き方改革も進んでいる。

問 フルクラウド化導入の際のイニシャルコストと運用のランニングコストは  
➡ 平成29年度からクラウド化の準備を進め、平成30年度から運用を開始。イニシャルコスト及びランニングコストに関しては、校務用端末、電子黒板、統合型校務支援システム、運用保守等を含め5年間のリース契約を行っており、年間のリース額は5千万円程度。

問 事業者のサーバーに大規模データなど重要な情報のセキュリティ対策は  
➡ 重要なデータを保存している校務支援システムに関しては、3段階のセキュリティ対策を実施している。ログインパスワードやIDパスワードで3回認証。今後は別の方法も検討していく。

市が教育に対して、とてもお金をかけているということがわかりました。  
担当の職員のみならず、とても熱心です。

記 土佐洋子

**デジタルシチズンシップ育成に向けて**  
**多久市 教育DXの推進を基板にして**

キーワードとして、デジタルツールを活用し、リアルな現実や仮想空間と「つながり」、社会参画のための「いとなみ」「かかわり」を意識させることを心がけていきます。

**目指す姿は 自らの生活を創造できる児童生徒**

そのために、教職員のICT機器の利活用をさらに促進するとともに、児童生徒自身が「学びのツール」として活用できる環境を整え、近未来、スマート社会を生き抜くデジタルシチズンシップの育成にを図ります。

ターゲット1 電子黒板とタブレット端末を有効的に活用することができる学習環境の整備充実  
ターゲット2 情報活用能力(情報モラルを含む)の育成を図るための体系的な学習活動の展開・充実  
ターゲット3 基本的な操作の習得や論理的思考力を身に付けるための学習活動の計画的な実施

👉 多久市の視察で配布された教育委員会作成のパンフレット

★葉山町は現在、施設一体型の小中一貫義務教育学校を建設予定でその経費は198億円を見込んでいます。現在、198億円に見合うだけの、町民への還元等を模索するため、完成期間を1年延期しています。この機に、とてもタイムリーな視察になったと思っています。

多久市では「義務教育学校におけるICTとGIGAスクールへの対応策と取り組み」について学んできました。多久市は市長の強い思い入れにより、早くから10校あった小中学校を6校に、そして現在では3校の義務教育学校になっています。多久市の人口は17,000人強ですが、面積が97㎢と広く、17台のスクールバスを動かしています。市がバスを買って、その運営には指定管理者制度を導入しています。

学校内のICTの利活用については、非の打ち所が無いほど充実していました。児童生徒用の端末は持ち帰りが原則で充電は自宅で行います。そのため、Wifi環境のない家庭向けにはモバイルルータを設置しています。教室環境整備はもちろん、家庭環境整備にも心遣いがありました。それにより、学級閉鎖等の対応でも、家庭で元気に過ごしている子どもたちと朝の会や授業を展開しています。また、学校に行けない子たちの対応として教育支援センターでも活用し、オンライン対応を含む、学びを止めない施策に取り組んでいました。また、ICT利活用により教職員の働き方改革も進んでおり、義務教育学校スタート時（平成29年）と比較して時間外勤務が約6割減とのことでした。

また、子ども達はタブレットドリルの活用として、登校してすぐ各自でタイピング英語の練習をし、授業の始まりには100マス計算を3分間行うなど、何よりも、楽しみながらゲーム感覚で知らず知らずの内に学力を身につけている取り組みに感心しました。障害者教育にも組み込んでいるとの説明を受けましたので、どのようなAIドリルを利用しているのか、知りたいと思いました。

記 金崎ひさ

★多久市では、児童・生徒の教育を第一に考え、小中一貫教育の導入、義務教育学校開校などの教育事業に力を入れていました。2020年から全国の小学校課程で始まるプログラミング教育を見据え、佐賀県内でも先駆けて電子黒板を導入しました。2016年からは、ICT教育の充実のためにタブレット端末など、ICTを活用した授業を行ってきたそうです。学校のICT環境整備とよりよいセキュリティ対策のために、各学校に設置していたサーバーをなくし、フルクラウド上で3校のデータを管理ができるよう、システムを大きく変更しました。

このような取り組みは、当時全国でも数少ない最先端の取り組みでした。フルクラウドに変えることで利便性や安全性が向上し、さらに教職員の働き方も変わったとのことでした。「2019日本ICT教育アワード」では、児童・生徒の学び方、教職員の働き方改革となる取り組みが高く評価され、総務大臣賞を受賞しました。

多久市の児童・生徒は主体的に考え、周囲の声にも耳を傾けながらさらに考えを深める「協働学習」に取り組んでおり、このような技術をどう活用すればいいかを身に付けるだけでなく、日々の学習にどう活かすかが課題であるとともに大きな可能性を感じているとのことでした。

フルクラウド化によって教職員のテレワークが可能になり、そのおかげで育児や介護などの時間に制約がある教職員も作業を職場だけでなく、自宅や出張先でも行うことができるようになったそうです。自宅などで作業を行う場合は、データが入っていないパソコンからクラウドにアクセスして作業し、その端末にはデータが残らないので、データを安全に管理できるそうです。

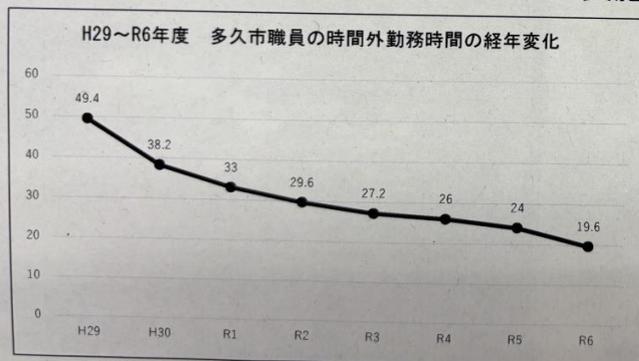
さらに教材や資料の共有化も可能となり、勤務時間縮減の効果も出ており、ICT環境を整備することで業務時間の短縮が図られ、その分教職員は児童・生徒と向き合う時間を増やすことも可能になったとのこと。超過勤務時間も県内では、一番少なくなっており、部活動の土日祝日の地域移行が完了しているそうです。

その他には、蔭山メソッドの導入、ルールの明確化、ソフトバンク・マイクロソフトとの連携、セキュリティ対策（3段階認証）等について説明を受けました。教育分野のICT推進については、葉山町よりかなり先進的な取り組みを行っている印象はありましたが、市のDX推進に関しては、葉山町とそれほど変わらない印象でした

記 伊東圭介

## 教職員の働き方改革推進【ICT利活用】

- ◆ICT支援員の配置（1校1人、大規模校2人）
- ◆校内サーバ内のデータをクラウドへ移行
- ◆クラウド内に校務ソフトを整備
- ◆最大3段階のセキュリティ（端末⇒クラウド⇒校務ソフト）
- ◆タブレット端末によるテレワークの実施



義務教育学校スタート時（H29）と比較して昨年度は3校の時間外勤務が約6割減となっています。

ICT利活用により教職員の働き方改革も進んでいます。



👉 多久市の教職員の時間外勤務の経年変化グラフ。ICTの利活用で働き方改革が着実に進んでいます

★多久市での視察目的は以下2点です。

- ①義務教育学校におけるICT教育の取組みについて
- ②多久市DX推進方針の進捗状況について

3校の義務教育学校の現在の状況は以下の通りです。

2025年5月1日 在校生人数 前期は小学生 後期は中学生

\*東原彦倉中央校 前期498名 後期253名 計751名

\*東原彦倉東部校 前期168名 後期 92名 計260名

\*東原彦倉西溪校 前期127名 後期 77名 計204名

スクールバス17台を運行し、児童生徒の移動を支えている。

小中一貫から3校の義務教育学校へ

平成24年度には小学校7校中学校3校があり、平成25年度から小学校3校中学校3校(小中一貫教育開始)平成29年度に小中一貫義務教育学校を開校した。

視察所感

- \*前市長の任期中の7期28年の間に教育に投資をしてここまでになった。
- \*3つの学校内での特色は①推進リーダーが各学年に入ること②情報の共有化③AIの活用④疑問に思ったことはまわりの人に伺い解決する
- \*今回も事前に質問した内容は頂いた資料にすべて記載されており、当日の質疑も分かりやすく伺い理解ができた。詳細は別紙参照。
- \*市のDX推進の担当者は、定期的な人事異動で配置された方で中途採用の方ではない。市のDX推進は、まだまだこれからですとのこと。
- \*今回の視察では、昨年9月の市長選で新人の市長に変わっていた。
- \*教育委員会の説明では、前市長からの意気込みが推進した結果である。

記 荒井直彦



多久市議会議場にて

## (2) 佐賀県武雄市

武雄市は、佐賀県の西部に位置し、1日目の視察先である多久市と隣接しております。九州自動車道では武雄北方インターチェンジ、西九州自動車道武雄南インターチェンジを有し、また西九州新幹線の武雄温泉駅が開業し、長崎までは23分、JR博多駅には在来線特急で約1時間、九州佐賀国際空港や長崎空港へも車で1時間圏内にあり、西九州の交通の要衝となっています。

平成の大合併において、旧武雄市・山内町・北方町の1市2町が、平成18年3月1日に合併し新たな武雄市が誕生しました。行政面積は195.40㎏と広大ですが、大部分が山地で山林面積が約50%を占めています。市の中心部には船の形をしたシンボリックな御船山があり、西部には谷を挟んで向き合う雌岩・雄岩がシンボルで「21世紀に残したい日本の自然百選」に選ばれた黒髪山があり雄大な山々と豊かな自然に囲まれた街です。武雄市のホームページによると、人口は現在46,357人で、世帯数は19,410世帯が暮らしています。

今回現地踏査いたしました「武雄市図書館・歴史資料館」や「武雄市こども図書館」などをはじめ、文化によるまちの賑わいを創出するために令和3年度に「文化のまちづくり構想」を策定し、これからの文化活動の拠点となる「新文化交流施設」において創造・活動の場、交流の場をさらに広げていき、文化活動をさらに発展させて、移住・定住促進を図っていくものと思われまます。

平成29年1月に議員有志で、平成25年にリニューアルオープンしていた武雄市図書館を自主視察しましたが、その際にはまだ開館していなかった武雄市こども図書館を現地踏査しました。こども図書館を別棟に独立して建築したのは、どれだけ騒いでも図書館に影響しないようにと願う保護者の声にこたえてのことです。

平成29年10月に新設されたこども図書館のコンセプトは「こどもと家族の生活を豊かにする図書館＝家（いえ）のような図書館」です。“遊び”から“学び”へと、全力でこどもの成長をサポートするとともに、大人（保護者）たちにとってもリラックスできる空間づくりが特徴的で、武雄に暮らしているすべての人が、笑顔になれる「家」のような場所になって欲しいとの願いが込められています。食事の持ち込みが可能なフードコートや、御船山や芝生ひろばを見渡せるカフェテラスの設置などがその一例です。

また、こどもの好奇心を育むフロア設計で、床面の高さが4段階に分かれていて、移動するたびに視野や視線が変化するため、新しい発見ができるようになっています。「ひみつのへや」や「おはなしラボ」なども配置されていて、こどもたちが本当にワクワクする空間が広がっていました。さらに約2万冊の本が並んでいる「図書スペース」や「プレイ&ワークスペース」では、ものづくりのワークショップや様々なイベントや講座が開催されています。



### 👉 武雄市図書館及びこども図書館の外観 同一敷地内に別棟として独立している

★武雄市図書館及びこども図書館について、溝上正勝館長より説明を受けました。武雄市図書館のポイントを資料と説明から感想として記述しますが、書き表せない部分が多すぎますので、ぜひ一度現地を見ていただきたいと思います。

図書館運営コンセプトは「市民生活をより豊かにする図書館」

(特徴・魅力)

- ① いつでも利用できる図書館として365日年中無休、朝9時から夜9時まで開館している。
- ② 居心地のいい図書館 図書館・書店・カフェが融合（飲み物を飲みながら、本や談話が楽しめる気楽な場所）  
ニーズに応えるゾーニング（読書、勉強、談話、話せる学習室、無料Wi-Fi、コンセント付き座席など）
- ③ 体験できる図書館 ・多くのイベント開催 ・学習や趣味などのキックケづくり ・やりがいや生きがいづくりに繋がるような企画 ・特に子どもや親子向けの提案型の体験イベントや講座を充実
- ④ 平成12年10月に図書館と歴史資料館、建設費20億から25億円としてオープン。その後平成25年4月リニューアルし指定管理制度を導入しました。子ども図書館は平成29年10月に建設費4億円で武雄市図書館の隣接地に芝生の公園のような庭伝いに配置されています。

図書館所有者は武雄市で改修コスト等は負担。指定管理者はカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（以下CCCと表記）で武雄市図書館、子ども図書館を運営。目的外使用としてCCCが営業区域使用料を蔦屋書店・スターバックスコーヒー・子ども図書館には九州パンケーキカフェの営業から得ている。

図書館でコーヒーを飲みながら読書や旅行雑誌を見る。子どもはこども図書館で体験教室。壁にはチョークいたずら書きコーナー。外の芝生では移動動物園の開催。多種のイベントが数多く企画され開催されている。市民生活に必要な複合した施設やバス停も周囲にあり、日常生活に必要な施設と趣味や教養向上のための図書館、個人やグループでの使用可能な図書館として利用者の増加傾向とのことでした。図書の閲覧、貸し出し、書店コーナー、眼鏡や万年筆小物類などの販売品もある。管内のマガジンストリートの雑誌は500タイトルと他所にない品揃え、同時に歴史、文学、専門書、旅行資料などなどの蔵書数も数多く圧倒される。

管内職員数は館長1人、社員10人、アルバイト22人の33人。以前の武雄市図書館職員13人中12人が自ら試験を受け、指定管理会社CCCの正規社員となり現在の図書館運営に当たっている。

溝上館長の熱弁は素晴らしく、地域文化の拠点として、住民の交流場所として高齢者の生きがい事業、ミニコンサート（静穏ルームもある）、子供たちの体験や生きた教育の推進などなど。さらにこの図書館事業からは移住定住促進につながる文化事業も開催され、町の将来発展につながる事業との話でした。武雄市図書館は教育委員会が行う事業を既に凌駕している感を持ちました。館長職の位置づけは武雄市の図書館長であり同時にCCCの社員でもあるそうです。

記 笠原俊一



👉 図書館内観 マガジンストリートには雑誌が500タイトルあり圧巻の品揃え

★武雄市図書館及びこども図書館の運営状況について現地踏査しました。武雄市図書館及びこども図書館の大きな特徴は以下の3点です。

- ・ 365日毎日9時～21時いつでも利用できる図書館
- ・ 書店とカフェが融合し居心地の良い図書館
- ・ さまざまなイベントなど体験できる図書館

視察は年間で百数十件を受け入れされているそうです。圧倒的にこだわったのは、また行きたくなるワクワク。本を読まない人たちにも、図書館に足を運んでもらいたい。ということで、TSUTAYAとスターバックスが併設されていますが、それは目的外使用とのこと。

TSUTAYAでは販売の本も扱っています。特に、雑誌は500タイトルもあり、マガジストリートは他にはない圧巻の品揃えです。そして何より面白いのは、雑誌や書籍はすべて館内で自由に閲覧し、楽しむことができます。館長さんがとても一生懸命。新しいスタイルの図書館で武雄市民が、変化があったと感じている。とても魅力があり素晴らしいです。

記 土佐洋子



👉 こども図書館の内観 4層からなるフロアが特徴的

左側写真:写真中央に武雄市の大楠をモチーフとした巨大壁画が描かれている  
その左上にフードコート(九州パンケーキカフェ)が配置されている

右側写真:右手奥の部屋が「おはなしラボ」でおはなし会の準備等で使用する

★武雄市では「図書館及びこども図書館の運営」について学んできました。葉山町の学校建設に際しては、児童、生徒のみならず、町民も集える学校にする計画を持っていますが、武雄市の図書館運営の神髄が大いに参考になると感じました。

武雄市図書館は指定管理者制度を導入していますが、任せっぱなしにしないという事で、図書館長は市が指名しており、市と教育委員会と密に連携し、何よりも郷土愛を持って、図書館に市民が集い、市民の生活をより豊かにするというコンセプトとして、その為の企画に取り組みながら運営している館長の功績は多大だと思いました。

いかに新設の学校を葉山町民が歓迎し、造って良かったと思ってもらえるものができるか、大きな課題だと思います。先進地を視察し、子ども達への教育はすぐにも取り込めることがあると思いました。町の面積が狭く、何事も広々とした環境にはなりません、郷土愛を持って町民の為になる町政運営になるよう、議会としても、きっちりと提言していかなければならないと思っています。

記 金崎ひさ



写真中央が溝上正勝館長

視察概要及び編集 待寺真司